

公益財団法人かめのり財団
2020(令和2)年度 事業報告

2020(令和2)年4月1日～2021(令和3)年3月31日

まず、2020(令和2)年度は新型コロナウイルス感染症拡大で当初計画していた事業に影響があり、中でも国際交流事業の多くが中止・延期せざるをえなくなり、また一部はオンラインでの実施を試みた。

そのような状況下にあっても、基本方針として、定款にうたわれる3つの柱

1. 高校生交換留学および大学院アジア留学生への奨学事業
2. 青少年の交流および言語教育支援を助成する国際交流事業
3. それらを推進するために、かめのり賞の顕彰、講演・シンポジウム等
その基盤支援事業

を実施することにより、日本とアジア・オセアニア諸国との相互理解・国際理解の促進を図る努力をした。以下、2020(令和2)年度主要事業の実施状況と成果を報告する。

1. 青少年留学支援事業

(1) 高校生交換留学支援

15周年記念事業のために、過去の参加者のデータの整理を行った。

(2) 大学院留学生支援

以下の奨学生7名に月額20万円を支給した。

2020(令和2)年度 大学院留学アジア奨学生

Ms. Nguyen Thi Thu Thao (ベトナム)	グエンティトゥオオ	2018.4-2021.3	早稲田大学 アジア太平洋研究科 国際関係学国際関係学専攻
Ms. Kuy Siemkiang (カンボジア)	クイシエンキアン	2018.4-2021.3	大阪大学 言語文化研究科 日本語・日本文学専攻言語文化研究科
Ms. Chittarak Chanika (タイ)	チッターラータック チャニカー	2019.4-2022.3	お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻 国際日本学領域
Mr. Jariyanusorn Jet (タイ)	ジャリヤヌソ ジェット	2019.4-2021.3	埼玉大学 人文社会科学研究科 国際日本アジア専攻
苗 静茹 (中国)	Ms. MIAO JINGRU ミョウ セイ	2020.4-2022.3	東京大学 法学政治学研究科 総合法政専攻

宜 鯤 (中国)	Mr. YI KUN	ギ コン	2020.4-2023.3	京都大学 経済学研究科
孫 心悅 (中国)	Ms.SUN XINYUE	ソン シンヱツ	2020.4-2023.3	同志社大学 社会学研究科社会福祉学専攻

大学院生へのサポートの一環として、2020(令和2)年9月9日～10日の2日間、当初長崎での開催であった研修交流会を、オンラインに変更し、奨学生7名と卒業生2名が参加した。各自の研究テーマの発表と意見交換、OBによるミニ講義、奨学生の状況を把握し、学生同士の親睦を深めるよい機会になった。

また、同年4月に予定していた大学院留学アジア奨学生証書授与式を9月12日に開催した。奨学生と修了生が出席し、奨学生選考委員およびOB,OGはオンラインでの参加となった。

加えて、2021(令和3)年度採用の「大学院留学アジア奨学生」の募集・選考を行った。指定校24校のうち9校から候補生の推薦があり、2021(令和3)年3月4日に選考試験(オンライン面接)を実施し、奨学生選考委員会により以下の3名を奨学生として決定した。

Ms. Do Thi Thu Huong (ベトナム)		ド ティ テカ フン	2021.4-2024.3	名古屋大学大学院 法学研究科
尹 美香 (韓国)	Ms. Yun Mihyang	ユン ミハヤン	2021.4-2023.3	早稲田大学大学院 法学研究科 民法法学専攻
金 叙娟 (韓国)	Ms. Kim Seoyeon	キム ソヨン	2021.4-2023.3	東北大学大学院 文学研究科 総合人間学専攻

2. 青少年交流および言語教育支援事業

(1) 青少年国際交流

2020(令和2)年コロナ禍で大きく影響を受けた事業で、次の2つの事業のみオンラインでの開催となった。

① 「かめのりカレッジ2020(エクストラ・エディション)」

日本人大学生のみを対象にすべてオンラインでの開催となり、2020(令和2)年7月25日にオリエンテーション、9月19日～21日にメインセッション、10月31日にフォローアップセッションを実施した。12名の大学生が参加し、オリエンテーション後、3か月間英語のオンラインレッスンを受けた。メインセッションは大学教員のほか国内外のビジネスパーソンや政府機関の職員らの講師陣の講義に加え、学生との双方向のコミュニケーションを図り、有意義な事業となった。また、その後チームプロジェクトとして、

日本をテーマにした課題に各チームがオンラインでミーティングを重ね、フォローアップセッションで英語でのプレゼンテーションを行った。

② カンボジアオンラインスタディツアー

(公社)日本ユネスコ協会連盟と共催で実施している「第7回高校生カンボジアスタディツアー」の参加者が実行委員となり、オンラインでのスタディーツアーを2021(令和3)年1月30日に実施した。同連盟「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」参加校9校、約100名の小中高校生を対象として、同連盟カンボジア事務所や現地寺子屋と中継でつなぎ、民間ユネスコ活動による国際協力の現場をオンラインで体験し、カンボジアの寺子屋学習者へのインタビューや街歩き等、現地との「つながり」を感じる貴重な学びの機会を提供した。

また、コロナ禍でやむを得ず、

- ・(公財)YFU日本国際交流財団で実施する第14回高校生短期交流プログラム(韓国)
- ・(公財)AFS日本協会との第13回中学生交流プログラム(マレーシア)
- ・(独)国際交流基金日中センターとの日本高校生訪中事業(中国)、
- ・かめのり中高生アンバサダープログラム2021(フィリピン)

の4つの事業を中止した。

なお、パイロット事業であった国際交流基金関西国際センターと共催の「東南アジア高校生招へい事業」、武生東高校との「高校生ワールドハピネス会議」は2021(令和3)年度に延期することとなった。

(2) 国際交流事業助成(緊急支援助成)

多くの事業が中止・延期となる中で、新型コロナウイルス感染症拡大という世界規模の非常事態の対応として「緊急支援プロジェクト助成」および「留学生緊急支援金」の2つの助成を実施し、計1,283万円の助成支援をした。

① 緊急支援プロジェクト助成

緊急性が高く、助成総額の規模も限られていることから、対象を第11回～13回のかめのり賞の顕彰者(9団体・個人)の限定公募で7団体から申請があり、2020(令和2)年7月に以下の6団体に計580万円を支給した。さらに、同年12月に第1回～第10回かめのり賞顕彰者及び第11回～第13回の第2次選考選出者にも対象を広げ追加募集を行い、17団体からの応募に対し同年12月に9団体に計523万円助成を行った。

採択団体、事業、助成額は以下のとおりである。

日本・ Bangladesh 文化交流会 (第13回)	大豆入り加工食品の巡回販売と、小学校児童及び支援者家族に大豆粉の配布(Bangladesh)	45万円
特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会 (第13回)	住民参加によるプライマリヘルスケア強化事業(東ティモール)	100万円

特定非営利活動法人 ISAPH アイサップ (第 12 回)	子どもを守る、母と家族の母子保健サービス利用促進事業 (ラオス)	100 万円
学校法人アジア学院 (第 12 回)	アジア・アフリカ農村指導者育成事業 (日本/栃木県那須塩原市)	100 万円
一般社団法人 グローバル人材サポート浜松 (第 11 回)	在住外国人のための介護職員初任者研修 (日本/静岡県浜松市)	100 万円
特定非営利活動法人 SALASUSU (第 11 回かものはし プロジェクトから独立)	新型コロナ禍での自分らしい生活を築くケアとトレーニングを通じたカンボジア最貧困層女性のキャリア形成プロジェクト (カンボジア)	135 万円

計 580 万円

【追加募集】

特定非営利活動法人 外国人医療センター (第 12 回 2 次選出)	外国人無料健康相談会または感染予防グッズ配布事業 (日本/愛知県一宮市)	34 万円
特定非営利活動法人 地球市民の会 (第 10 回)	ミャンマー・チン州における遠隔型研修の実施整備事業 (ミャンマー)	49 万円
特定非営利活動法人 国境なき子どもたち (第 9 回)	脆弱な環境にいる子どもたちの教育支援 (フィリピン)	49 万円
小さな美術スクール (第 8 回)	カンボジア困窮家庭への生活支援 (カンボジア)	50 万円
特定非営利活動法人 新潟国際ボランティアセンター (第 8 回)	新型コロナウイルス緊急支援 ベトナムロンアン省キムチシ ェルター教育支援及び食料支援プロジェクト (ベトナム)	100 万円
特定非営利活動法人 アクション (第 7 回)	コロナ禍での子どものケアに関する保護者の能力強化プロジ ェクト (フィリピン)	47 万円
公益財団法人 PHD 協会 (第 7 回)	ミャンマーのスラム・パターにおける緊急食糧支援及び COVID-19 感染拡大防止のための啓発活動 (ミャンマー)	50 万円
一般社団法人 インドネシア教育振興会 (第 4 回)	かめのり支援 COVID-19 拡大に打ち勝つヒカリ小の子 (インドネシア)	50 万円
特定非営利活動法人 LOOB JAPAN (第 2 回)	貧困コミュニティの小学校の遠隔授業サポート (フィリピン)	94 万円

計 523 万円

② 留学生支援金

アルバイト等収入の大幅な減少で修学の継続が困難な学生に対する経済的支援を目的とし、かめのり財団の大学院奨学金の推薦大学において複数の奨学生が採用された9大学を対象に募集し、18名の学生に1人10万円計180万円支援金を交付した。

(3) 海外日本語教育サポート事業

① (独) 国際交流基金との共催事業「にほんご人フォーラム 2020 (タイ)」が延期となり、それに代わり、「オンラインにほんご人フォーラム 2020」を企画・実施した。

日程は2020(令和2)年12月12日・13日と2021(令和3)年1月10日・17日の2回、別プログラムで「にほんご人フォーラム 2019 (ベトナム)」のタイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、日本の6か国の高校生14名と中等教育機関の教師9名が参加した。将来のキャリアを考える「同窓会 2040-みんなの未来をのぞいてみよう-」をテーマに、12月は生徒教師合同プログラムと1月は合同プログラムとその後教師プログラムを行った。過去の参加者であることから1年ぶりの再会と、オンラインでの実践も工夫次第で国際交流が可能であることが分かり、貴重な機会となった。

(独) 国際交流基金ベトナム日本文化交流センターの「中学生日本語キャンプ 2020」は、ベトナムへの独自の支援を計画していたが、コロナ禍での集合型の教師研修や交流事業の実施が困難であるため、その代わりに教育現場の質的向上を目的に、ベトナムの初等・中等教育機関で勤務するベトナム人日本語教師への機材購入の支援をする「ベトナム中等日本語教師教育機器購入支援事業」を実施した。対象機材はポータブル拡声器、プロジェクター、スピーカーの3点で、49名の教師に支援し、教室での日本語の授業で活用してもらうことにした。

3. 国際交流および人材育成の講演・セミナー事業

(1) 異文化理解講演会

コロナ禍で、2020(令和2)年8月函館での當作靖彦教授の講演会を予定していたが、実施困難となり、中止となった。

(2) かめのりフォーラム 2021

「かめのりフォーラム 2021」を2021(令和3)年1月8日にオンラインで開催した。第1部では第14回かめのり賞の表彰セレモニーおよび受賞団体の活動紹介、第2部は第14回かめのり賞受賞者によるオンライン・パネルディスカッションを行った。

「かめのりセッション 2021」は今年度の中高生プログラムが中止・延期となったため、実施を見送った。

4. 国際交流および人材育成に関する顕彰事業

第14回かめのり賞は、今回受賞団体を増やし、かめのり大賞2部門（草の根部門、人材育成部門）、特別賞（2団体）の計4団体に顕彰した。将来を見据えた、地道な努力で心の絆を深め、相互理解に貢献している団体・個人の活動を評価した。正賞のトロフィーと、副賞として100万円の活動奨励金を贈呈した。16の団体・個人の応募があった。

【かめのり大賞 人材育成部門】（敬称略）

NPO 法人日越ともいき支援会

【かめのり大賞 草の根部門】

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

【かめのり特別賞】

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

【かめのり特別賞】

特定非営利活動法人シャンティ山口

5. その他

(1) 広報活動の強化

継続的にホームページの充実を図るとともに、当財団の活動を関係団体はじめ広く周知するために、事業活動を紹介するニュースレター「かめのりコミュニティ」を7月、11月、3月と年3回発行した。

(2) ITの整備

いままで奨学金を支給していた過去の奨学生に関して現状を把握して、継続的にかめのり財団との関係をつなげるべく、OB.OGのネットワークづくりのため立ち上げたFACEBOOKを含み、引き続きIT環境の整備を行った。

(3) 15周年記念事業の準備

2021(令和3)年4月にかめのり財団設立15周年を迎えるにあたり、15周年記念事業の準備を予定していたが、コロナ禍で当初の計画での事業実施が困難となり、2021(令和3)年度の事業実施のめどが立たなくなったため、15周年事業の企画を再度見直し、2022(令和4)年度へ延期することを検討したいと考える。

以上